

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 光貞 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

#### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

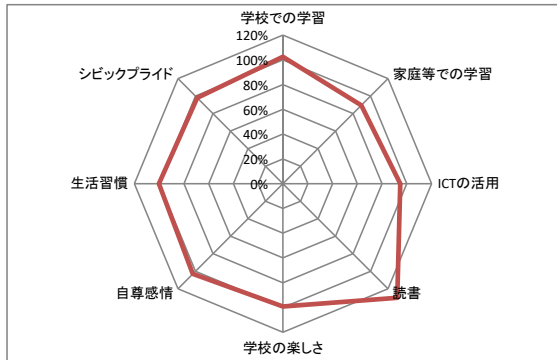
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	8割以上の問題で、全国平均を上回っており、無回答率も低い。特に、記述式問題は、全国平均を大きく上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じ、話の内容をとらえ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめていく問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	図などによる語句と語句の関係の表し方を理解するなど、情報の扱いに関する事項に課題がある。	

算数	全体的な傾向や特徴など	6割以上の問題で、全国平均を上回っており、無回答率も低い。各領域とも、図形や数量関係の意味や性質を理解し、正しく処理したり、説明したりすることができる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	図形領域の台形、正方形、正三角形の意味や性質について理解し、題意を捉えて処理する問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	三角形の底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉を用いて記述する問題に課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」「授業で学んだことをほかの学習で生かしている」との問いに対して肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。全校で「問い」を核に自分の考えを書いたり、話し合ったりするなど、授業改善を進めてきた成果が出ている。</p> <p>○「土曜日、日曜日など学校が休みの日にどれくらいの時間、勉強をしているか」との問いに対して「1時間より少ない」「全くしない」と回答した割合が多かった。家庭学習の充実や生活習慣のあり方など、保護者に協力を呼びかけたり、学級活動などで話し合ったりすることで、児童自身が家庭学習や生活習慣を見直す契機をつくっていく。</p> <p>○「5年生までに受けた授業で、PCやタブレットなどのICT機器をどれくらい使用したか」との問いに対して、「頻度が少ない」と回答した割合が多かった。児童の興味関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや掲示装置などを活用して、資料などを効果的に提示する授業を推進する必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<p>○「問い」を核に、自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりするなど、主体的な学びが発揮できる授業をより一層充実させる。</p> <p>○ICT機器を取り入れた授業について、教員が抱える問題点を洗い出して課題を抽出し、その課題に対応する校内研修カリキュラムを設定したり、活用場面を年間カリキュラムに位置づけたりして、ICT活用の日常化に努める。</p>
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○家庭学習の充実や生活習慣のあり方について、「学校通信」「学級通信」等で、保護者に啓発をしたり、学級活動等で取り上げ、話し合わせたりすることで、定期的に宿題や課題に取り組む意義について気付かせるようにする。また、継続的な取り組み称賛するなどして、自ら学ぼうとする意欲を向上させるようにする。</p>
--